

ここにあるじゃないか地域資源！

～ほんまもん体験のすすめ～

「観光カリスマ塾を開催」

近畿運輸局企画観光部では、平成21年11月10日(火)～11日(水)の2日間、和歌山県西牟婁郡白浜町日置川にて、観光カリスマ塾を開催しました。この観光カリスマ塾は、地域の活性化に成功した「観光カリスマ」を塾長に迎え、成功のノウハウ伝授、現場視察・体験、ワークショップなどを行い、次代の観光まちづくりのリーダーを育成するため、塾生を一般公募し、毎年開催しているものです。

今年度は、刀根浩志氏(和歌山ほんまもん体験倶楽部)を塾長に迎え、農山漁村部の潜在的な価値の再認識等による体験交流型観光の定着など、豊かな自然環境と田舎でしか体験できないことにこだわった「ほんまもん体験」を通じた地域の活性化に対する取組を中心にした講義及びその取り組みのひとつである紀州備長炭の炭焼き体験を実施。

刀根塾長による観光カリスマ塾(以下「刀根塾」)には、20代から60代までの旅行者、旅館経営者はもちろん、航空会社や旅客船事業者、お肉屋さんやお米屋さんなど多彩な顔ぶれの21名の方が参加されました。

初日は曇り空の中、集合場所であるJR和歌山駅よりバスで約2時間所用して、ようやく開催場所である向平キャンプ場セミナーハウスに到着しました。冒頭、平嶋企画観光部長から開講の挨拶を、開催地白浜町日置川事務所佐本所長及びNPO法人ほんまもん体験倶楽部朝本理事長より激励の挨拶をいただき、いよいよ講義がスタート。





「ようこそ、和歌山へ！」と塾長からの挨拶。

実はこれも実践講義のひとつであり、ほんまもん体験において「いらっしやいませ」はNG。ゲスト扱いではなく、人間対人間の関係を構築する事が必要であるとの事。いきなりの出来事に皆驚きつつも、全員が自己紹介を行い、改めて講義開始。体験型観光の理念やコーディネーターとしての役割、体験プログラムの作り

方や安全管理など、盛りだくさんの内容もテンポ良く進められ、あっという間に1限目が経過。これまで持っていた既存の価値観ではなく、新たな視点で物事を考えて行く事について行くのが必死の塾生でした。

2限目も1限目同様テンポ良く講義が進められましたが、そこは既に地元で地域活性化に取り組まれている塾生の方々。切り替えが早く、塾長の講義と地元のイメージを掛け合わせながらの講義となり、カリスマのノウハウを堪能出来た1日となりました。

初日の予定を半分終了した時点で一旦講義は中断。あたりは日も暮れかけ、徐々に冷え込んできたため、セミナーハウス近くのえびね温泉へ皆で入浴後、本日の宿泊先となる民宿へ移動、夕食となりました。



この夕食には、塾生にサプライズ企画が用意されており、平嶋企画観光部長からはモズクガニが、朝本ほんまもん体験倶楽部理事長からは子持ち入り鮎の差し入れがありました。

いずれも地元日置川で採れた最高の素材であり、鮎は翌日の体験メニューでもある紀州備長炭で焼いて食べるという、絶品の料理に皆感動。

本日最後の講義である3限目及び情報交換会の場は、地元でカヌーや海釣りのインストラクターをされている方をコーディネーターとして交え、ほんまもん体験でのこれまでの苦労や現状をお話いただき、そして塾生の地元の悩みなどを聞いていただくなど、夜遅くまで大いに盛り上がりました。

二日目は大雨の中(この日和歌山市内においては観測史上最高となる1時間に119.5ミリの雨を記録)、本日の講義である紀州備長炭の炭焼き体験のため、早朝よりバスに乗り込み現地まで移動。



体験メニューの講師である玉井又次氏(備長炭研修所)より、炭焼きの出会い、白炭・黒炭の違い(紀州備長炭は白炭)、紀州備長炭及びその木酢液の持つ不思議なパワー、そして何より全員で作業をする事により生まれる一体感の必要性について講話をいただきました。

そしていよいよ炭焼き体験スタート。紀州備長炭はウバメガシの木を、1300℃で20日間焼き続ける気の遠くなるような作業の一部を体験しました。



玉井氏(1列目右から3人目)奥様(1列中央)
を囲んで全員で記念撮影

1300℃の炭窯から炭を取り出し、砂をかけて炭を冷ましていく。炭を冷ましている間は、次の炭の準備に取りかかるという目まぐるしい作業の中、塾生も真っ黒になりながら、必死で作業に取り組みました。

わずか3時間ほどの作業にも関わらず塾生全員に一体感が出来た事、これだけ大変な作業を玉井氏と奥様の二人でされている事に改めて驚かされるとともに、学生や新入社員の教育旅行に人気があるというのも納得させられる講義となりました。

炭焼き体験から一息ついたところで、最後の講義。刀根塾に参加した感想を各々が発表、「既存の価値観を良い意味で根底から覆された」「地元で取り組んで来た事を一から考え直す」「1泊2日の研修ではモノ足らない」etc…。刀根塾に本当に満足していただけたようでした。

そして、皆確実に昨日とは違う顔つきになったところで講義終了。塾長より一人一人に修了証書が手渡され、今年度の刀根塾は閉講となりました。

荷物を整え、バスに乗り込んだところで外に目をやると、何時までも手を振っている塾長。

実はこれも実践講義のひとつ。バスが見えなくなる最後まで手を振り見送り続ける事も、ほんまもん体験であるとの講義を思い出し、塾生もバスの中から、塾長の姿が見えなくなるまで手を振っていました。



個人それぞれ地元での取り組みや思いは違いますが、刀根塾での経験が確実に
地元で活かされる事を期待し、また、塾生のうちから新たな観光カリスマが生まれる
日を心待ちに、来年度も観光カリスマ塾を開催したいと思います。

(企画観光部観光地域振興課)